



## 漁師列伝

No.10

# 「6次産業の取り組みも行うニューフィッシャー！」

水産研究・教育機構 開発調査センター主任研究員 小田憲太郎

今般、紹介するすごい漁師は、濱田秀樹さん（山口県漁協田布施支店組合員）です。濱田さんは大阪府生まれの42歳！！家系は漁師というわけではなく、数年前までは大手ハウスメーカーでバリバリの営業職をされていました。営業成績はいつもトップ！家庭に仕事に充実した生活を送られてきた濱田さんが、何故、山口県を代表する先駆的な漁師になったのか。その秘密について、伺ってみました。



濱田さんの小型底びき網船 拓波丸4.9t

## なぜ！？漁師に

**小田：**本日はお忙しい中、お時間を作ってください感謝申し上げます。早速ですが、何故、陸の仕事を辞めて漁師になられたのでしょうか。

**濱田：**「それはズバリ、給料よりも家庭が大事だと思ったからです。漁師になる前（サラリーマン時代）は、残業ばかりで家にいる時間はほとんどありませんでした。会社

に使われるのでは無く、自分で経営できる漁師になりたいと考えていたからです。」

**小田：**「なるほど。思ったらすぐに行動！人生一度きりですからね。でも、ご家族には反対されませんでしたか。」

**濱田：**「妻が何というか心配でしたが、意外にもすんなりOKをもらいました。サラリーマン時代よりも漁師になった今のほうが、家族と一緒にいる時間も増え、私生活も充実した暮らしをしています。」

**小田：**「ところで、漁師になりたての頃は今のよう順風満帆では無かったですよね。」

**濱田：**「はい。いろいろ経験させていただきました。田布施に引っ越してきてすぐの頃は、地回りの師匠に付いて色々と教わり、中古船（1tクラス）を購入して、操業方法（建網、蛸壺、ナマコ底びき網など）を学びました。最初のうちは、なかなか思うようには水揚げが出来ませんでした。その後、もっと沖に出る漁業に変えたいと思うようになり、再び中古船（4.9tクラス）を見つけ購入しました。」

**小田：**「そのお金はどのように工面されたのですか。」

**濱田：**「今の、日本政策金融公庫からお借りしました。借り入れの手続きもスムーズに進み、感謝しているところです。」

**小田：**「僕も息子の学費で大変お世話になっているところです、笑。」



未利用の魚を奥様が加工した商品

### 6次産業化の取り組み

**小田:**「その後、濱田さんは6次産業化の取り組みを行う先駆的な漁師になったわけですが、きっかけは何だったのでしょうか。」

**濱田:**「底びき網漁業では、田布施地域だけに限らず値段のつかない魚をたくさん獲ってしまうことがよくあります。それらは自分たちで食べるか捨てることになるわけです。この魚を売れるようにするためにはと、仲間の漁師と考えました。そこで考え出されたのが、それらの魚を使った加工品の製造と販売です。」

**小田:**「なるほど、これが協業体の“新鮮田布施”の発足ですね。」

**濱田:**「そうです。私が獲ってきた魚のうち販売できないものを使って、うちの嫁さんが刺身、みりん干し、冷凍フライ半製品などを作ります。それを、地元で販売しています。」



濱田さんの奥様、美穂子さん

**小田:**「とてもいい奥様ですね～、うらやましいです。で、気

になる収入は。」

**濱田:**「加工収入が加わったため、漁業収入だけの頃と比較すると、利益は2.4倍くらいになりました。」

**小田:**「すごい！！」



活気あふれる新鮮田布施！商品は並べられるとすぐに売り切れる。

### 漁師を目指す人へ

**小田:**「最後に、濱田さんのように陸の仕事を辞めて、漁師に転職しようと考えている人に一言いただけますか。」

**濱田:**「漁師になりたい、または興味がある人は、漁業就業支援フェアに行きましょう！いろいろな漁業を学べ、また本物の漁師さんとも話せます。私も参加し、漁師になった訳です。しかし、当然それだけではありません。この地に引っ越してきた私たち家族を快く受け入れてくれた田布施の人々、漁業を教えてくれた師匠、漁師仲間、そして家族、皆のおかげで今の私があります。今度は私が皆から頂いた恩を返す番だと考えています。新しく漁師になりたいと考えている人を育て、日本の漁業を活性化できたらと考えています！」

**小田:**「すばらしいお言葉、有難うございました。」